

2015年パグウォッシュ会議長崎大会報告 —「長崎を最後の被爆地に」—

2015年12月19日(土)

鈴木 達治郎

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA) センター長・教授

パグウォッシュ2015組織委員会委員長

suzukitatsu@nagasaki-u.ac.jp

パグウォッシュ会議とは

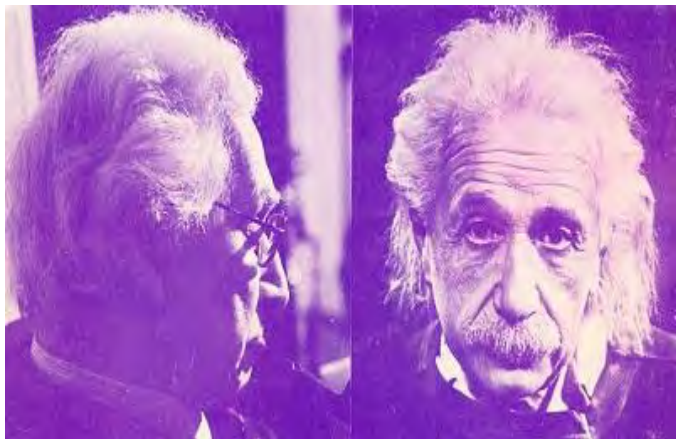
:対立を超えた対話と科学者の社会的責任

Dialogue across Divides, and
Social Responsibility of Scientists

<http://pugwash.org/>

<http://pugwashjapan.wix.com/pugwash-nagasaki2015/>

ラッセル・アインシュタイン宣言 (1955/7/9)



- もしそのような爆弾が地上近くまたは水中で爆発すれば、放射能をもった粒子が上空へ吹き上げられる。そしてこれらの粒子は死の灰または雨の形で徐々に落下してきて、地球の表面に降下する。日本の漁夫たちとその漁獲物を汚染したのは、この灰であった。
- 私たちは、人類として、人類に向かって訴える——あなたがたの人間性を心に止め、そしてその他のことを忘れよ
- もしそれができるならば、道は新しい楽園へむかってひらけている。もしできないならば、あなたがたの前には全面的な死の危険が横たわっている。

http://www.pugwashjapan.jp/r_e.html

カナダの漁村パグウォッシュ村に東西の科学者が集結(1957年7月)



<http://www.pugwashphotoarchive.com/p/home-page.html>

パグウォッシュ会議の理念： 対立を超えた対話と科学者の社会的責任

- **核兵器および他の大量破壊兵器と戦争の根絶が究極の目標**
- **対立を超えた対話**：対立は軍事的手段ではなく、対話で解決。対立を超えた対話の場を提供する。
 - **個人の立場で参加**：国家や団体、組織を代表するのではなく、個人の立場で参加し、お互いの考え方や意見を尊重する。参加は招待者のみ。
 - **自由で率直な意見交換**：自由な意見交換を促進するため、**原則非公開**。会員制度などは持たず、非公式で任意な活動に基づく。
- **科学者の社会的責任**：科学者(専門家)として、また一人の人間として、科学技術のもたらす**負の影響を予見し、その削減にむけて情報を発信し、かつ具体的行動をとる**。議論も科学的根拠に基づく。



実現可能な政策提言：政府や意思決定者に対し(非公式・公式な場を通じて)実現可能な政策提言を伝える。

2015年パグウォッシュ会議長崎大会

メインテーマ：“*Nagasaki’s Voice: Remember your Humanity*”

「被爆70年：核なき世界、戦争の廃絶、人間性の回復をめざして」



The 61st Pugwash Conference on Science & World Affairs
Nagasaki’s Voice: Remember Your Humanity
1-5 November 2015, Nagasaki, Japan





パグウォッシュ2015 第61回パグウォッシュ会議世界大会概要



- 日時：2015年11月1日(日)～5日(金)
 - 10月30日～31日 国際学生ヤングパグウォッシュ会議開催
 - 11月1日(日)、3日(火)は長崎市内にて公開セッション、市民との対話
- 場所：長崎県長崎市 やすらぎ伊王島
- 主催：パグウォッシュ会議、パグウォッシュ2015組織委員会
- 後援：外務省、文部科学省、日本物理学会、日本平和学会、日本軍縮学会
- 協力：長崎県、長崎市、長崎大学、長崎核兵器廃絶連絡協議会、RECNA, (独)国際観光振興機構(JNTO)
- 参加者：34か国から192人(国際本部発表)

長崎大会の意義と狙い

- **被爆地長崎で学び、感じ、発信する**: 被爆地長崎において、被爆体験に学び、市民と対話・交流することによって、核兵器の非人道性と現在の脅威への実感を深め、核兵器廃絶のための科学者としての行動をより積極的に展開します。
 - **緊張・対立の中で、対話と信頼醸成の場を提供する**: 国際情勢が不透明化・流動化し、世界の諸地域で緊張の高まりが指摘されるなかで、紛争当事国の科学者間の対話の場を提供します。
 - **北東アジアの非核化を目指す**: 北東アジアにおける核問題、領土問題、歴史認識問題等がある中で、率直な議論を交わすことによって、平和で友好的な関係構築を図ると共に、地域の非核化への具体的道筋について議論します。
 - **福島原発事故の教訓から学ぶ**: 原子力平和利用をはじめ科学技術がもたらす便益とリスク、ならびに科学者の社会的責任について、立場の違いを超えて、科学的・客観的観点から議論します。
- これらの議論の成果に基づき、会議の最後に「**長崎宣言**」を採択し、世界に発信します。

プログラム概要(1)

1日目:午前中

- 献花、ノーベル平和賞メダル寄託式典、被爆者(山脇佳朗氏)講話、城山小学校訪問
- 開会セッション
 - 国連事務総長、安倍首相、外務大臣メッセージ
 - 市長挨拶など



プログラム概要(2)

1日目:午後(サイモンズ・シンポジウム)

- 核兵器の非人道性
- 核兵器廃絶への道筋
- 非核兵器地帯への展望と課題
- カザフスタンの非核化

2日目:

- 南アジアの核問題
- ワーキンググループ議論



プログラム概要(3)

3日目

- 北東アジアの平和的共存
- 原子力平和利用のリスク
- ドロシー・ホジキン講演: 下村脩
名誉教授、益川俊英名誉教授
- レセプション: 河野洋平氏スピーチ(グラバー園)



プログラム概要(4)

4日目

- ワーキンググループ
- イラク・シリア・ダーイッシュ問題
- イランの核問題合意の経緯
- ディナースピーチ: 吉川弘之
日本パグウォッシュ会議諮問評議
会議長

5日目

- ISYPとの対話
- 総括セッション
- 長崎宣言



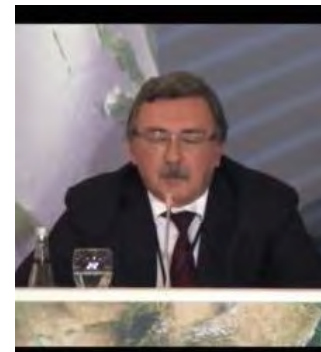
主要スピーカー

- アニタ・フリード (Anita Friedt) (アメリカ) 米国務省軍縮局首席国務次官補代理。①
- ミハイル・ウリヤーノフ (Mikhail Ulyanov) (ロシア) ロシア外務省軍縮・軍備管理局長。②
- ハーリド・キドワイ (Lt. Gen. (ret.) Khalid Kidwai) (パキスタン) パキスタン国家指揮最高部顧問、元中将③
- アリー・アクバル・サーレヒー (Prof. Ali Akbar Salehi) (イラン) イラン副大統領。原子力庁 (AEOI) 長官④

①



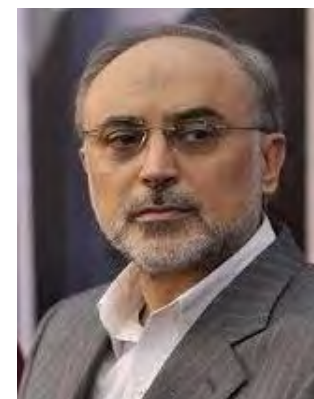
②



③



④



ワーキンググループ (WG)

- WG1: 核兵器の非人道性
- WG2: 核兵器廃絶に向けての具体的道筋
- WG3: 地域グループ(欧州)
- WG4: 地域グループ(中東・アフリカ)
- WG5: 地域グループ(南アジア)
- WG6: 地域グループ(東アジア)
- WG7: 原子力平和利用
- WG8: 先端科学技術と科学者の社会的責任



WGでの議論要旨

WG2

- 核兵器所有・使用を禁止する条約への明確な支持。既存核兵器の解体・廃棄も含む。
- 禁止のための法的枠組みを進める議論は核廃絶に向けての段階的措置と矛盾しない。
- 市民社会、特に若い世代の支持を獲得するためのコミュニケーション戦略の構築。
- 非核兵器地帯設立への一步を踏み出すことの重要性を訴える。(RECNA提言への支持)。

WG6

- 地域の信頼醸成措置が必要。トラック2アプローチを目指すべき。
- 日本のプルトニウム在庫、中国の核戦略の不透明性等、重要課題についての率直な意見交換が必要。
- 米中の核戦略対話の促進、北朝鮮非核化のための「包括的安全保障の枠組み」をベースとした「北東アジア非核兵器地帯」の可能性を追求すべき。

WGでの議論概要

WG7

- 原子力発電利用拡大への「慎重」な対応を要請。
 - 原子力のリスク・コストは過小評価され、利益は過大評価されてきた。
 - 福島事故は終わっていない。工学的リスクだけでは議論できない。
 - 温暖化対策としての貢献はあるが、他の代替案も評価すべき。
- 安全・核セキュリティでの多様なアプローチが必要。
- 再処理は民生用・軍事用に関わらず中止すべき。核燃料サイクルは一国単位ではなく多国間枠組みを推進すべき。

WG8

- 未来を予見する(foresight)必要性に合意。科学者と意思決定者は未来に責任を持つ。未来を予知することは不可能であり、不確実性が常に伴う。したがって、長期のリスク管理と未来に備えた科学的助言が極めて重要である。
 - 特に重要な先端技術として、自律型致死性武器システム (Lethal Autonomous Weapons System: LAWS)
 - 軍民両用技術と行動規範の重要性

長崎宣言「長崎を最後の被爆地に」(1)

- パグウォッシュ評議会は被爆者の声に耳を澄まし..そして世界の政治指導者に対し、被爆者の叫びを受け止めるよう強く訴える。
- そして最も重要なのは、核兵器保有国が核兵器の削減にとどまらず、核兵器の廃絶を確約しなくてはならない。
- 拡大核抑止(「核の傘」)に依存する非核保有国もまた、自身の安全保障政策を変革しなくてはならない。
- 国々と市民社会、国際組織が連携して核兵器の法的禁止を目指す全世界的なイニシアティブが、核の脅威除去のために重要な役割を果たしうる。

<http://pugwashjapan.wix.com/pugwash-nagasaki2015#!blank/qn09u>

長崎宣言「長崎を最後の被爆地に」(2)

- 2011年に発生した東京電力福島第1原発事故は、原子力安全の重要性、また原子力技術に付随するリスクを封じ込めることの重要性を私たちに思い起こさせた。
- 現代科学技術が多くの分野で急速に進展している。そのことが**究極的には人間性にまで影響を与えるという点に十分な注意を払わなければ、新たな危険が鎌首をもたげるかもしれない。**
- **恐らく今日、科学者の社会的責任はかつてないほど重大なものになっている。**
- 「対立を超えた対話」。これはパグウォッシュ運動の基本理念です。**核兵器使用の引き金を引くかもしれない地域的緊張は外交的な措置によって解消されるべき。**
- **核兵器を廃絶し、究極的に戦争そのものをこの地球上からなくさなくてはならない。**

長崎宣言「長崎を最後の被爆地に」(3)

- 広島、長崎の被爆者、世界中で行われた核実験で被ばくしたヒバクシャの経験を次の世代へと伝承していくことは、決定的に重要。
- ラッセル-アインシュタイン宣言を思い起こし、長崎市民と被爆者の声を分かち合いながら、きのこ雲の下で起こった惨劇が深く刻み込まれたこの地から、パグウォッシュ評議会は今一度、人類の一員として、人類に向かって訴える。

「あなたがたの人間性を心にとどめ、その他のことを忘れよ」と。



長崎宣言後の活動

- 非人道性の議論から核兵器禁止の法的枠組みへの議論へ。**市民社会との連携**を図る。
- **パグウォッシュ東アジアグループの結成**
 - 日中韓3か国のパグウォッシュメンバーが地域の信頼醸成のために定期的に会合を開く
 - 北朝鮮の参加を促し、非核化への条件を探る
 - 北東アジア非核兵器地帯構想の実現にむけての連携
 - 北東アジア非核専門家パネルの結成。信頼醸成のためのトラック2をめざす。
- 日本パグウォッシュ会議活動・諮問評議会の継続・充実
 - 活動成果の随時報告、長崎(RECNA)との連携等……

「ナガサキ・プロセス」を通じた世界の非核化への貢献



被爆地長崎の「知の拠点」： 核兵器廃絶研究センター（RECNA）

市民社会と協働して非核化を目指す「ナガサキ・プロセス」

国際的な 核軍縮動向調査・研究

- ・重要な国際会議や、客観的な情勢分析に基づき、北東アジアや世界の非核化を実現するための政策研究を行い、その成果を適宜発信する。
- ・核軍縮動向調査を通じて得られた情報を、地域密着型のシンクタンクとして、わかりやすく発信する。

「ナガサキ・プロセス」 構築への知の貢献

- ・「北東アジア非核化専門家パネル」を設置。その中心となることで、研究と政策提言を結びつけることを目指す。
- ・市民社会、研究者、政府関係者等が参加する、いわゆる「トラック2」対話を促進する。

核軍縮分野における 長崎大学ブランド人材の育成

- ・文理の壁を超え、実務・研究の壁も超えた人材育成のための軍縮・不拡散教育プログラム開発。
- ・国内外から若手研究者・専門家を受け入れる制度の確立。
- ・学生等インターンで国際機関等に派遣する制度の確立。

核兵器のない世界へ



お礼

皆様の温かいご寄付、ご支援、ご協力、心より厚くお礼申し上げます。

特に、本会議の準備段階から会議の成功のために献身的にご協力いただいた長崎県、市、長崎大学、そして市民の皆様に、改めて深い感謝と敬意の念を表したいと思えます。

今後とも、皆様と連携しつつ、核兵器と戦争の廃絶に向けて、全力を尽くしていく所存です。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。